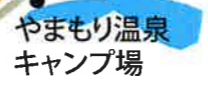
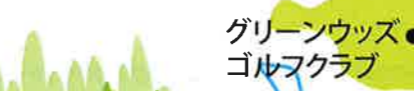


終わりの始まり 天神野を潤す 森の物語

平成27年11月1日(日)



バス移動
ウォーキング



終わりの始まり 天神野を潤す森の物語

このイベントは、
森林をみんなで守り育てるための
「森林環境保全税」を活用して行うものです。

スケジュール

- 8:30~ ① 受付…倉吉市役所関金分庁舎 駐車場
- 9:00~ ① 開会式…倉吉市役所関金分庁舎 駐車場
- 9:30~ ② 円筒分水工見学(大鳥居)
- 10:00~ ③ 山守小学校記念植樹
- 11:10~ ④ 里見安房守忠義主従之廟見学
- 11:50~ ⑤ 昼食(水車の郷体験工房)※石臼の会
- 13:10~ ⑦ 大山池植樹
- 14:20~ ⑧ 南谷発電所見学と木の実の里散策
- 15:10~ ⑨ 閉会式…木の実の里
旧倉吉線跡地トレッキング(希望者)
- 16:00頃 ① 解散…倉吉市役所関金分庁舎 駐車場



森は
海の恋人

②円筒分土工

この分土工は、昭和43年(1968)に建設された施設で、狼谷ため池からの用水を5つの水路に分水しています。分土工は、2つの円形の壁によって区切られており、直径が内側5.0m、外側11.5m、そして最外壁は14.4mあります。

用水は、分土工手前で地下4.2mのところを管によって横断し、分土工内壁の中心に吹き上げます。内側の壁からあふれ出た用水は、外側の壁と最外周の壁との間を区切る分水隔壁によって5つの水路に分かれます。分水隔壁は、それぞれの水路に決められた配分比率で用水が分かれるように配置がされており、これにより地域の水をめぐる争いが解消されました。

このような農業用施設は、鳥取県内では大変珍しいものだという事です。



⑦大山池

大山池は、天神野耕地整理事業でつくられた灌漑用のため池で、正式な名前を狼谷ため池といいます。ため池の堤防から眺める水面に、大山隠岐国立公園の秀峰大山が逆さに映る姿を見て、誰言うことなく大山池と呼ぶようになったといわれています。

天神野一帯をまかなう灌漑用ため池として大正13年頃に造られたのがはじまりで、その後水田の規模拡大を目的として、昭和18年から三年の歳月をかけて、現在のような規模にまで拡張されました。池の最大貯水量は132万トン、水面は151,600平方メートルで、天神野区域にある8つのため池の中で最も大きく、農業用のため池としては県内一の規模です。大山だけでなく、蒜山三座、周囲の水田や梨園などを水面に映す大山池は、四季折々に様々な表情を見せ、訪れる人々を楽しませています。

また、大山池周辺は、古くから人々の生活があったところで、遺跡の密集している場所としても知られています。この遺跡は、縄文・弥生時代から奈良時代にいたる時代の複合する一大遺跡地帯となっており、たくさんの土器や石器などの遺物が確認されています。秋のころ、池の北岸では水の引いた地表面に、細かい草が円形の群落となり茂っている景観がみられます。これは、縦穴式住居跡埋土の真上に繁茂している草と考えられており、発掘せずして建物の配置が分かる大変珍しい光景です。この住居跡群は周辺に散布する土器や形態から、弥生時代中期～後期のものと推定されています。

そのほか、池の東側に隣接する横峰地区では、縄文時代のものと推測される落とし穴などが確認されています。



④里見安房守忠義主従之廟

清和源氏 新田氏の裔、房州・館山里見家十代の当主・里見安房守忠義(12万2千石)が終焉の地は、ここ伯耆国堀村です。

慶長19年(1614)、里見忠義は安房国館山から伯耆国倉吉(神坂)に、3万石で転封(実質4千石余とか)。元和3年(1617)下田中に移住。のちにこの堀村に移され、3年近く配流の身同様の生活を送りました。そして元和8年6月19日、29歳の若さで悲運の生涯を閉じました。里見氏は、忠義をもって断絶しました。家臣達は3カ月後の9月19日殉死。主従の墓碑は、倉吉の大岳院にあります。

里見忠義の住居跡は、山郷神社の近くであったといわれ、この小祠に里見主従が祭祠されています。

後世、永享10年(1438)以来の里見一族のことがモデルといわれる滝沢馬琴の大長編小説「南総里見八犬伝」は、あまりにも有名です。



⑧南谷発電所(小水力)

水力発電とは水のエネルギーを活用した発電方式です。水車までの落差と流量により発生電力が決まります。

南谷発電所では、第1号幹線水路から引き込んだ水で水車を回し発電します。また、ヘッドタンク上流側に無動力除塵機を設置し、水の力を利用してゴミを自動的に排除しています。

天神野台地の農業用水は、小鴨川に取水堰を設けて引水し、これを大山池などのため池に貯水して、水田に配水しています。

南谷発電所は、この大山池に流入する農業用水を活用した水力発電所として、昭和28年3月に南谷村農業協同組合(当時)が設置し、昭和54年4月から天神野土地改良区が事業を引き継ぎ、今に至っています。

しかし、建設より60余年が経過し老朽化が進んできたため、平成24年度から改修を行い、平成26年11月に元気に生まれ変わりました。自然に優しい再生可能エネルギーを活用して、地域農業の維持発展に役立てていきます。



【発電所諸元】

設備位置/倉吉市関金町大字泰久寺字狼谷801
水車形式/横軸フランス水車
発電出力/90kW(約17.8世帯分)
最大使用水量/0.45m³/s
有効落差/24.0m
発電事業者(管理者):天神野土地改良区



旧倉吉線跡地 トレッキング 希望者

明治45年～昭和33年の間に開通した旧国鉄時代の倉吉線廃線跡を歩きます。

廃止から約20年以上が経過する旧関金駅～旧泰久寺駅のレール跡と枕木、旧泰久寺駅ホーム、田舎と自然の風景、山守トンネルなど、地域と密着した鉄道産業に思いをはせ、通常では見学のできない独特のロケーションを体感することができます。

また、線路跡からは蒜山や大山などの眺望もおすすめです。

